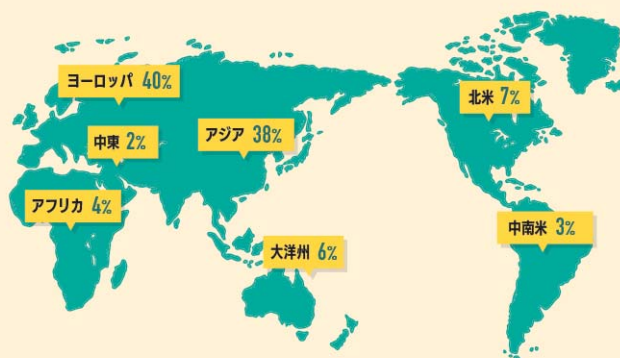


サイエンス・ダイアログとは？

日本学術振興会(学振)のフェローシップ制度により来日した外国人研究者(フェロー)を講師として高等学校等に派遣するプログラムです。講師は自身の研究や出身国に関する講義を英語で行います。

講師になるのはどんな人？

講師は、学振のフェローシップ制度によって、厳しい審査を経て世界各国から来日し、最先端の学術研究に携わっている若手研究者です。



実績・実績件数の推移

全国で約250校の学校が参加しています。
参加した生徒はのべ約79,000人に上っています。
授業後のアンケートで「再度講義を聴きたい」と回答した生徒は全体の約90%と高い満足度を誇ります。

2016年度	198
2017年度	146
2018年度	137
2019年度	135
2020年度	オンライン含む 97
2021年度	オンライン含む 108
2022年度	オンライン含む 135
2023年度	オンライン含む 149
2024年度	オンライン含む 149

参加するには？

お申し込みの際は、必ず以下のWebサイトに掲載の「実施要領」をご一読ください。

打ち合わせ

学振から参加校の先生に、講師の連絡先をお伝えします。参加校の先生から講師に連絡を取り、両者にて講義内容や必要な機器などについて打ち合わせを行ってください。

交通費

講義実施後に、学振から講師及び講義補助者に交通費を支給します。支給額は学振の規程に基づいて算出します。



申込期間(締切厳守)

1 学期開催分申込(2026年4月～8月)

2026 2/16 Mon > 2026 2/20 Fri 17時 締切

2 学期開催分申込(2026年9月～12月)

2026 5/11 Mon > 2026 5/15 Fri 17時 締切

3 学期開催分申込(2027年1月～3月)

2026 8/31 Mon > 2026 9/4 Fri 17時 締切

※参加申込書を提出専用Webページからご提出ください。
申請書のダウンロードや申込手続きの詳細はサイエンス・ダイアログWebサイトをご覧ください。



SCIENCE DIALOGUE 2026 サイエンス・ダイアログ



世界中の研究者と科学が紡ぐ、
講義と対話の舞台。



独立行政法人 日本学術振興会 国際事業部人物交流課 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1

お電話でのお問い合わせ ☎ 03-3263-1730

メールでのお問い合わせ ✉ sdialogue@jsps.go.jp



日本学術振興会 (JSPS) とは？

文部科学省所管の独立行政法人で、日本の学術研究の振興を担う機関です。
博士号取得前後の外国人研究者に対し、日本で研究を行うためのフェローシップを提供しています。

世界とつながる。英語でひろがる。サイエンス・ダイアログで、教室に未来がやってくる。

2025.7

宮城県仙台第三高等学校

講師 東京大学/Dr. Giselle Lugo MIOLE(フィリピン)

テーマ 気候正義 (Climate Justice) と地球環境保全のためにできること

学術的な刺激と国際理解の両面に影響を与える機会に

大学で行われている研究の具体に触れたこと、オールイングリッシュで専門分野を学習することで、グローバルな視野を持ちながら高等教育を体験できる貴重な機会となりました。それにより、英語学習に対する意欲向上や、学術研究への関心及び学術研究の国際性への理解を深めることができました。今後の進路選択の一助にもなったと感じています。

研究そのものはもちろんのこと、研究者としてのあり方や、研究を進める上で重要な視点や視座に関してもご講義いただきました。加えて、ご出身の国の文化についてなど、研究を超えたグローバルな視野も含めた講義内容であり、生徒にとって貴重な機会となりました。



from the Philippines

2025.8

香川県立観音寺第一高等学校

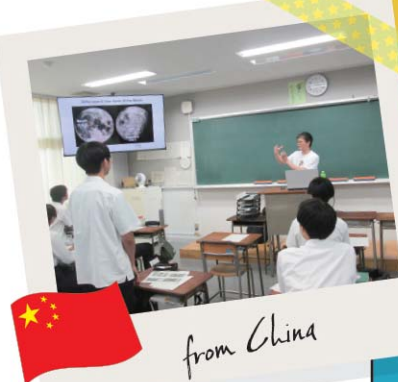
講師 愛媛大学/Dr. Jiejun JING (中国)

テーマ A Journey to The Moon

グローバルな視点と英語学習の動機付けに

生徒にとって英語で科学の専門的な講義を聴くのは今回が初めてであり、海外科学体験研修を控えて良い経験になりました。また英語のネイティブスピーカーではない講師の英語の講義を聴くことで、科学の分野で世界的に活躍するには英語が不可欠であり、英語を学習する重要性を改めて実感させることができました。講師は美しくて分かりやすいスライドを何十枚も

作成してくださり、生徒が理解できるように工夫してくれていました。地方の公立高校では英語で科学的な講義を直に聴く機会はなかなかないので、サイエンス・ダイアログを利用できたことは生徒にとって大変貴重な経験となりました。



from China

その他こんな講義が行われています！

京都大学 × イタリア
Cultural heart: the role of Kyoto and machiya in shaping the "authentic" experience

理化学研究所 × オーストラリア
Adaptive motor control and prosthetic vision

東海大学 × モザンビーク
Building a World where Every Student can learn with Ai and IoT

大分大学 × ドミニカ共和国
Obesity Research

2025 年度サイエンス・ダイアログ参加者からの声

実際に研究されている方の最先端の研究についての講義を受けることができとても興味深かった。普段は聴くことができない話を英語で聴くことができとても貴重な体験で良かった。

宇宙の話がたくさん例を用いてくり返し情熱を持って伝えてくださったので、難しくはあったけどとても楽しかった。また、科学へのとりくみ方も教えてくださって良かった。

英語の講座を聴き取れるか不安だったけど、思ったよりも内容を理解できずごくおもしろい研究だった。新しく学ぶことも多くすごくいい時間を過ごしたと思う。

発展的な内容だったが、世界史で学習した内容と繋がるところがあって学習の成果を感じた。このような本格的な講義を聴いて大学に進学した後の自分がよりリアルに想像することができた。

私も普段日常的な人間観察が好きなので、地域に根付く文化や社会の仕組みにフォーカスするといった普遍的なテーマを研究の基とするこの学問について、とても興味を惹かれた。

研究内容や結果などを知ることができ普段自分たちが知ることができないことを講義で知ることができたので、科学への興味も湧いたし、何より面白かった。



生徒から



先生から

講義の内容は非常に高度で専門的な内容を含むものだったが、生徒たちは、高い専門性の獲得と英語学習への意欲が喚起されたようだった。講師の先生が情熱をもって語られており、質問を用意してくださるなど双方向的な工夫をしてくださった。

講師の先生が一生懸命に伝える姿に、生徒は引き込まれていたようだった。ひたむきに研究を進めることの意義を生徒なりに感じ取ったように見えた。未来を変えていく力がある、との言葉に勇気づけられた。

普段学んでいる教科書の範囲にとどまらない分野の知識に触れることができた。また、事前学習によりテーマに関する意識を高めて講義を聴くことができた。しかし、英語の速さ、音声の聞き取りに困難が生じ、英語力のない生徒には苦痛であった可能性がある。しかし、それを体験することに意義がある。

While the goal was to inspire the students, I also found myself learning from them, especially about how to adapt my public speaking style, connect more effectively with younger audiences, and keep explanations simple yet engaging. It was a valuable experience in both directions.

This experience was great opportunity to see more of Japanese culture, education system and inside to understand better how Japanese research is motivated by.



講師から

参加校からのメッセージ

浦和明の星女子中学・高等学校 上原瑛子先生

本校では高校1〜3年生を対象に、希望者を募って毎年実施しています。今年度は75名が参加しました。女性研究者の方をお招きし、研究内容や出身国のこと、ご自身のキャリア選択についてお話いただくことで、進路選択の一助になることを期待しています。理系選択者が科学や研究に対する興味・関心を高める良い機会になっていることは勿論ですが、文理を問わず、生徒たちが国際交流への意欲を高めている様子も見受けられます。ここ数年は特に英語での質疑応答が活発で、「自分の英語が伝わった」「質問に答えてもらった」という経験を通じて、英語を学ぶ楽しさを実感できていることを嬉しく感じます。多方面の学びを与えてくれる、非常に良いプログラムです。

